



1. 活動日時：2015年10月24日（土） 10：00～15：00
2. 参加者：10名 ・現役GS：3名 社友GS：7名
3. 活動内容
 - ・今回は、フクロウの巣箱のリフォームと、所定の木に取り付けるという二つのテーマに取り組みました。
 - ・リフォームのポイントは、従来の上部に加え、今年から側面にもつけることにしたカメラの固定の仕方でしたが、いつも通りワイワイガヤガヤ意見を言い合いながら見事にクリアしました。
 - ・特に側面のカメラの取り付け方については、ポリタンクのノズルを活用するという社友GSの岡森さんのアイデアが見事にヒットし、防水と巣箱内にカメラを突き出さないという難問を解決してパーフェクトに仕上げることができました。
 - ・参加いただいた10名のGSのみなさん、本当にお疲れ様でした。中でも岡森さんの直観には脱帽です。また午前中SGC明日香の森の活動に参加され、午後から神於山の活動に駆けつけてくださった社友GSの田平さんの熱意には心から感謝です。
4. 今後の活動
 - ・今後は、架けた巣箱の継続的な観察と、植栽地の間伐、竹林のメンテナンスが活動のメインになります。
 - ・巣箱の観察は今後の活動日のルーチンワークになりますし、巣立ちが近づくと臨時の観察も必要になります。
 - ・また間伐は、切った木を炭焼きの材に加工する必要があるため、人手が多いほど捗ります。
 - ・それぞれご案内しますので奮ってご参加ください。

■上から撮影するカメラの取り付け ・巣の中でフクロウが羽ばたいて当たっても動かないように改善しました。



カメラの位置決め



カメラのプレ止めとその固定枠



先に固定枠を止め、プレ止めをセット。



万一に備え更にガードを追加。こえて万全です。

- ・昨年とは何かの拍子に親鳥がカメラに触れ、画角が変わってしまうというアクシデントがありました。
- ・天井の角に付けたカメラにフクロウが触れるとは想像もしなかった為ですが、今年はその反省を踏まえ、万一フクロウがカメラに触れても画角が変わらないようにカメラの径に合わせた穴をあけたプレ止めを付け、更にガードを付けて万全にしました。
- ・これで仮にフクロウが触れても、画角が変わるという心配は無くなりました。



■横から撮影するカメラの取り付け-1 ・フクロウがカメラに触れないことと、防水の両立が課題です。



テーパをどう生かすかがポイント。



カメラを差し込み、最適な位置決め。



このテーパを生かす。

- ・岡森さんが見つけたポリタンクのノズルは、カメラが収まる太さがあり、しかも元と先で太さが変わりますからカメラを差し込んで行くとピッタリ固定できます。また素材がポリエチレンですから、防水は問題ありません。
- ・残る課題はノズルの太さにピッタリ合った穴を巣箱に開けることで、これが出来ればほぼ満点の取り付けができそうです。

■横から撮影するカメラの取り付けー2

・ひらめきを現実のものに……。カメラの取り付け作業。



まずドリルで穴をあけ・・・



カメラの太さまで慎重穴を広げ・・・



カメラをセット。



ノズルは、カメラより長く巣箱の中に出して折返し、板で巣箱に固定しました。

- ・上から撮影するカメラの取り付けは、万が一への対応ですが、横から撮影するカメラは、フクロウが触れることが十分考えられるので、巣箱の中に出っ張らないことが条件になります。
- ・ただそうするとカメラ本体は巣箱の外になり、今度はカメラの防水対策が大きな課題になります。
- ・岡森さんが見つけたポリタンクのノズルは、この両方を解決する素材で正にクリーンヒットです。
- ・外部の巣箱とノズルの間の隙間は、岡田さんが木工用ボンドをてんこ盛りに充填して塞ぎました。



壁との隙間は木工用ボンドでシール。

外から見るとこんな感じ。

■上穴式巣箱づくり。

・穴を上に向けた巣箱は初めての試みです。フクロウがどちらを選ぶか楽しみです。



まず痛んだ巣箱を補修・・・



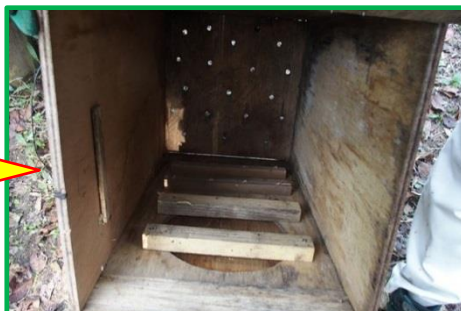
引き回し鋸で丸く切り進め・・・



横穴式のアールに合っているか確認。



縦穴の入り口が完成しました。



中にはよじ登り用の棧もセット。

- ・フクロウは、自然の中では枯れた太い木の洞などの窪みを巣にすることが多いので、今回試に、植穴式の巣箱を作りました。
- ・ご専門の日本バードレスキュー協会の村濱さんの話では、フクロウは、雨風はあまり気にしないとのことですが、できるだけ穴から雨水が入らないように、穴は巣箱の角に設けました。
- ・フクロウは、この人間の配慮を解ってくれるでしょうか？

■参加いただいたGSの皆さん

・午前中のリフォーム作業が終わったあとの記念の一枚。お疲れ様でした。



- ・右の巣箱が昨年 2 羽のひなが巣立った巣箱。左の巣箱は、今回横穴式を上穴式に改造した巣箱で、いずれも昨年は、上部のクリの木広場の木に架設していました。
- ・素材はコンパネですが、一年以上風雨にさらされ、自然になじむ良い色合いになっています。
- ・フクロウは、一度営巣して気に入ると、その後も同じ巣に営巣する習性があるそうですから、今年も昨年と同じ木に架設する予定です。
- ・巣の架設は、昨年も 10 月第 4 週でしたが、麓の丘陵地では、すでにペアリング（繁殖のための交尾期）が始まっているようですから、ぎりぎり間に合うか微妙な線です。

※田平さんは午後参加でしたので、残念ながらこの記念撮影に間に合わず 9 名になっています。

■巣の架設作業

・巣の架設は 3 回目ですから要領は心得ていますが、安全第一で進めました。



巣箱を滑車で引き揚げ・・・針金で幹に縛り付けて完成。今回は金井さんに代わって社友GSの高瀬さんが大活躍です。



植穴式の巣箱も同要領で取り付け完了。

- ・昨年営巣した巣箱は、フクロウの“同じ巣箱に営巣する”という習性を信じて、昨年と同じ木のほぼ同じ高さに架けました。
- ・縦穴式に改装した 2 台目の巣箱は、20m 程度離れた杉の木に架けました。
- ・この杉の木は、植林時まとめて置かれたまま放置されていた苗木が競い合って育った内の 1 本で、固まって伸びるという珍しい形になっていることから、伐らずにそのまま保存しているものです。
- ・どちらでも構わないので、今年も神於山シャープの森の中で営巣してくれるように願っています。

■バードビュー

・初めてフクロウの目になって巣箱を撮影しました。CSRの岡田さんの斬新なアイデアと決死的な撮影です。



フクロウが、“あれは何だ？”と興味を持ってくれば大成功です。